

文字指導を中心とした小学校英語活動の試み

北條 礼子*・君 佳子**

0. はじめに

ここ数年来、筆者（北條）がコーディネータとなり、大学と附属幼稚園、附属小学校との協同の下、大学院生、学部生による英語活動の出張授業を実施している。本稿は、平成21年度の本学と附属小学校における英語活動の研究成果の一部を報告するものである。同英語活動の特徴と、平成21年度に新たに開発している学習プログラムの一部について紹介する。

1. 研究の背景

1.1 これまでの小学校英語活動の経緯

2008年3月28日に文部科学省は、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の改訂を告示した。小学校における外国語（英語）活動は、平成21～22（2009～2010）年度の移行期間を経て、平成23（2011）年度より高学年の5、6年において週1回、年間35時間程度正式に導入されることが決定された。

これまで小学校英語活動は、国際理解の一環として活動内容は各小学校の自由裁量に任されていたことから、活動内容は多岐にわたっていた。

しかし、文部科学省（2008）の平成19年度小学校英語活動実施状況調査結果によると、全国21,864校の公立小学校のうち、97.1%にあたる21,220校が英語活動を実施していたが、活動内容や年間授業時数にはかなりの格差があり、今回の必修化の大きな理由はこの格差を埋めることであるといわれている。

1.2 文字指導について

文部科学省（2008）の平成19年度小学校英語活動実施状況調査結果によると、「歌やゲーム」などが英語活動の主流を占め、その実施率は第4学年で98.2%、第5学年で97.8%、第6学年で97.3%となっている。しかし、歌やゲームばかりでは、児童は英語に親しむことはできるとしても、児童の発達段階や特徴を考慮に入れると、知的好奇心を刺激するなどの英語に親しむ以上のねらいを期待することは難しいと考えられる。児童の発達段階を考慮した、楽しいだけに終わらない英語活動プログラムを構築することは意義があり、また解決すべき緊急の課題ともいえよう。筆者は、この課題を解決する手立てとして、文字指導、他教科関連の内容の導入、クラスワイドソーシャルスキル訓練（Classwide Social Skill Training: CSST）の導入を考えているが、本稿では文字指導に注目する。

そのうち、文字指導であるが、文科省はこれまで文字指導を推奨してこなかったが、樋口（2005）は、文字指導は児童の知的欲求や興味に合致していることなどをあげ、文字の指導をことさら遅らせる必要はないとしている。文部科学省（2008）による平成19年度小学校英語活動実施状況調査結果の活動内容では1年生から「文字に触れる活動」が行われ、6年生では5割弱の実施率となっている。また、文科省が全国の拠点校に配布した「英語ノート6年生」の最初でアルファベットの大文字、小文字が扱われている。

ところで、ベネッセコーポレーションの小学校英語に関する基本調査（2006）結果では、英語活動が嫌いな理由として児童があげた第一の理由として「英語を読むことがうまくできないから」があげられている。現在小学校英語活動では、読む活動はほとんど行われていないことを考慮に入れば、児童が英語を読めないのは当然のことであるとされる。にもかかわらず、児童の英語活動が嫌いな理由として「英語が読めない」ことがあげられているのは、英語を読みたいという児童の気持ちが実は強いからではないかと推察される。さらに、塾など学外で英語に触れる機会のある児童も多いと思われ、そこからそのような機会の少ないか、あるいはない児童が塾等で英語が読める児童と

* 上越教育大学 ** 福島県会津若松市立松長小学校

自分を比較して、英語が読めないから英語が嫌いである、という気持ちになっていることも推測される。

野呂 (2007) は、小学校からの文字指導の必要性を指摘している。小学校から英語学習を開始する際、活動の初期段階で大量の英語の音声に触れることにより音韻認識力を高めることが何より必要であり、児童が慣れてきた段階で、音声の構成要素と文字を関連づけるフォニックスの練習を徐々に取り入れ、書記素と音素の変換規則を身につけさせる必要があるとしている。このような訓練を小学校で十分に行えば、英単語がスムーズに読め、また書けるようになり、中学校での音読や文字指導における「つまずき」が少なくなると述べている。

1.4 これまでの出張授業の経緯

2006年秋から大学院生、学部生が主な構成メンバーとなる、ティーム・ティーチング (TT) 形式の出張授業を、本学附属幼稚園と附属小学校において実施している。

2008年度は、3年生にはアルファベットの大文字・小文字の読み方とそのフォニックス読みの指導を行った。その際このような文字学習が退屈なものにならないように、ドリルの部分にゲーム性を持たせたカードゲームやピコピコハンマーゲームなどを取り入れた。4年生には、前年度実施したアルファベット大文字・小文字の読み方とそのフォニックス読みの学習の継続として、前年度の学習から一歩進んだフォニックスの基本的規則である「サイレント e (マジック e)」を指導した。試行的な学習であるので4年生児童の理解の状態を把握しながらあせることなくゆっくり学習を進めた。さらに2009年2月には2年生においてコミュニケーション重視の活動とアルファベットの大文字の読み方のみの学習を実施した。

2009年度現在、2年生以上を対象に、10月から出張授業 (各回30分) を実施している。2年生は全3回程度、3年生以上は各10回程度の授業実施予定である。附属小学校では年間20時間程度の英語活動が行われている。小学校英語活動のねらいはコミュニケーション能力の素地を作ることとされているが、コミュニケーション活動は附属小学校が主に担当し、大学からの出張授業はこの活動を補完するものとして文字指導を担当している。今年度は新型インフルエンザのため学級閉鎖等があり英語活動にも影響があるが、今年度末までに附属小学校の協力の下、可能な限り授業実施する予定である。

2009年度は2年生ではアルファベットの大文字の読み方を扱い、3年生ではアルファベットの小文字とフォニックス読みを扱う。4年生では昨年度指導した「サイレント e (マジック e)」に加えて8つの2文字子音を扱う。5年生では、8つの2文字子音と「礼儀正しい母音」を扱う。6年生は出張授業開始年時の3年生であり、附属小の2クラスのうち、1クラスでのみの実施であったため、文字指導が難しいことから、他教科関連の内容を扱った授業とクラスワイドソーシャルスキル訓練を組み入れた授業を実施している。

2. これまで作成した英語活動学習プログラム

ここでは、2009年 (平成21年) 度英語活動学習プログラムとして本年度新しい学習プログラムとなる附属小学校4年生、5年生の授業について概略を述べる。さらに、5年生の授業案を紹介する。

2.1 附属小学校4年生用の英語活動学習プログラム (大学出張授業編)

2009年度は4年生では10月から毎週金曜日に2クラスで英語活動を実施している。原則として各組大学院生、学部生3名ずつの編成である。2009年10月から12月までの活動内容の大体の流れは表1に示すとおりである。

表1 附属小学校4年生用の2009年度11月から12月の英語活動学習プログラム

1	10月16日 (金)	あいさつとHello song 事前テスト (アルファベットテスト, マジック e, 二文字子音の単語テスト) アルファベットの「名前」と「音」の復習 アルファベット体操 (歌って踊りながら, アルファベットの小文字の各文字が四線のどこに位置するかを児童が理解するのを支援する目的の, 振りつけつきの歌) Good-bye songとあいさつ
2	10月23日 (金)	あいさつとHello song アルファベットの「名前」と「音」の復習 フォニックスの足し算の復習 今日のチャレンジ (マジック eでmatがmateに早変わり!) Do you know the astronaut? (歌とダンス) Good-bye songとあいさつ

3	10月30日(金)	あいさつとHello song アルファベット体操 マジック e のmateなどの復習 今日のチャレンジ (マジック e でtime, Peteを読んでみよう!) カルタとりゲーム Good-bye songとあいさつ
4	11月27日(金)	あいさつとHello song アルファベット体操 マジック e のmateなどの復習 今日のチャレンジ (マジック e でnote, cuteを読んでみよう!) Words collectゲーム アルファベットの小文字 (o~t) の読み方の復習 Good-bye songとあいさつ
5	12月4日(金)	あいさつとHello song 今まで習ったマジック e 単語の復習 前時の復習 今日のチャレンジ (マジック e の新出単語を覚えよう!) 伝言ゲーム Good-bye songとあいさつ

2.2 附属小学校5年生用の英語活動学習プログラム (大学出張授業編)

2009年度は5年生では11月から毎週金曜日に5年生2クラスで英語活動を実施している。原則として各組大学院生、学部生3名ずつの編成である。2009年11月から12月までの活動内容の大体の流れは表2に示すとおりである。

表2 附属小学校5年生用の2009年度11月から12月の英語活動学習プログラム

1	11月6日(金)	始まりのあいさつ アルファベットチャンツ 事前テスト (リスニングテスト, 単語と絵のマッチングテスト) サイレント e の復習 DVDを見る (2文字子音の歌) 終わりのあいさつ
2	11月27日(金)	始まりのあいさつ アルファベットチャンツ DVDを見る (2文字子音の歌, 音の足し算) 今日のチャレンジ (2文字子音chime, ship, phone, whiteなど) 2文字子音カードゲーム 終わりのあいさつ
3	12月4日(金)	始まりのあいさつ アルファベットチャンツ DVDを見る (2文字子音の歌, 音の足し算) 今日のチャレンジ (2文字子音this, think, back, singなど) 2文字子音カードゲーム 終わりのあいさつ
4	12月11日(金)	始まりのあいさつ アルファベットチャンツ DVDを見る (2文字子音の歌) 今日のチャレンジ (this, think, back, sing, chime, ship, phone, whiteなど) 2文字子音カルタ
5	12月18日(金)	始まりのあいさつ アルファベットチャンツ 今日のチャレンジ (chime, ship, phone, white, this, think, back, singなど) 2文字子音神経衰弱ゲーム 終わりのあいさつ

2.3 2009年度5年生第1回～第5回目の授業案

表2で、第5回目までの授業案の概略を示したが、以下にその授業案を示す。

第5学年1, 2組 英語活動指導案

平成21年11月6日(金)

〈授業者〉

11:50～12:20 (5年1組)			11:15～11:45 (5年2組)		
上越教育大学大学院	1年	Joe	上越教育大学	4年	Melissa
	1年	Susie	上越教育大学大学院	1年	Julia
	2年	Carol		3年	Tony

1 題材名 「Phonics -サイレントeの復習-」

2 本時のねらい

- (1) 事前テストをする。
- (2) フォニックスの復習をする。

3 準備するもの

- ・DVD (DVDでフォニックス2 マジックでフォニックス)
- ・アルファベットチャンツの絵とCD
- ・文字カード (サイレントeの絵カード)
- ・CD (バナナじゃなくてbananaチャンツ)

4 本時の展開 (30分間)

分	学習活動	指導・支援上の留意点・[評価]
2分	1. 始まりのあいさつをする。 Hello, everyone. My name is ○○. Hello, everyone. (Hello, ○○.)	・楽しい雰囲気で活動を始められるように明るく挨拶する。(6人全員で)
5分	2. アルファベットチャンツをする。	
12分	3. 事前テストをする。 ○単語のリスニングテスト ○単語と絵のマッチングテスト	・1度目はCDの音声を聞き、2度目はいっしょに言う。 ・児童が理解しやすいように、日本語で丁寧に説明し、問題の番号も日本語で言う。 2度繰り返して発音する際に、「1回目」「2回目」と言って注意を促し、聞き漏らすことがないように支援する。
5分	4. サイレントeの復習をする。 ○仕組みについて復習する。 ○カードを見ながらリピートする。 ○「じゃなくてチャンツ」をする。	・サイレントeについて簡単に説明した後、チャンツを使ってリズムよく繰り返すことで、無理なく復習できるようにする。 [元気よくチャンツが言えたか。]
5分	5. DVDを見る。	・見終わった後、次を予想させ、次時への関心を高める。
1分	6. 終わりのあいさつをする。 Thank you, everyone. (Thank you, ○○.) See you next time. Bye! (SeeでC, youでUの形を手で作りながら)	・がんばったことを誉め、楽しい雰囲気での授業を終えられるようにする。

第5学年1, 2組 英語活動指導案

平成21年11月27日 (金)

〈授業者〉

11:15~11:45 (5年2組)			11:50~12:20 (5年1組)		
上越教育大学大学院	1年	Joe	上越教育大学	4年	Melissa
	1年	Susie	上越教育大学大学院	1年	Julia
	2年	Carol		2年	Tony

1 題材名 「Phonics - 2文字子音-」

2 本時のねらい

(1) 2文字子音について理解する。

3 準備するもの

- ・DVD (DVDでフォニックス2 マジックでフォニックス②2文字子音)
- ・アルファベットチャンツの絵とCD
- ・カード (ch, sh, ph, wh)
- ・文字入り絵カード (グループ用, 提示用)
- ・カード入れボックス

4 本時の展開 (30分間)

分	学習活動	指導・支援上の留意点・[評価]
1分	1. 始まりのあいさつをする。 Hello, everyone. My name is ○○. Hello, everyone. (Hello, ○○.)	・楽しい雰囲気で活動を始められるように明るく挨拶する。
3分	2. アルファベットチャンツをする。	・CDの音声を聞きいっしょに言う。 (CDに合わせる前に一度練習する)
8分	3. DVDを見る ・2文字子音の歌 ・音の足し算	・前回の学習を想起させ、busとbathのちがいに興味を持たせる。 ・「2文字子音の歌 (DVD)」を通して、その発音に興味を持たせるようにする。
5分	4. ・今日のチャレンジの提示をする。 ・単語の発音練習をする。 [chime, ship, phone, whiteなど]	・2文字子音の読みを確認した後、チャンツを使ってリズムよく繰り返し単語を練習することで、発音の仕方に慣れさせる。 [元氣よくチャンツが言えたか。]
12分	5. 2文字子音カードゲーム	・トランプゲームの方法を説明する。(4人グループになり、2文字子音の絵カードを一人3枚ずつ配る。教師の発音を聞き、自分が持っているカードにその単語があれば発音し、メンバーに渡していくゲーム。早くカードがなくなれば勝ちとなる。)
1分	6. 終わりのあいさつをする。 Thank you, everyone. (Thank you, ○○.) See you next time. Bye! (SeeでC, youでUの形を手で作りながら)	・がんばったことを誉め、楽しい雰囲気で授業を終えられるようにする。

第5学年1, 2組 英語活動指導案

平成21年12月4日 (金)

〈授業者〉

11:15~11:45 (5年2組)			11:50~12:20 (5年1組)		
上越教育大学大学院	1年	Joe	上越教育大学	4年	Melissa
	1年	Susie	上越教育大学大学院	1年	Julia
	2年	Carol		2年	Tony

1 題材名 「Phonics - 2文字子音-」

2 本時のねらい

(1) 2文字子音について理解する。

3 準備するもの

- ・DVD (DVDでフォニックス2：マジックでフォニックス②2文字子音)
- ・アルファベットチャンツの絵とCD ・文字入り絵カード (グループ用, 提示用)
- ・カード (th①, th②, ck, ng) ・カード入れボックス

4 本時の展開 (30分間)

分	学習活動	指導・支援上の留意点・[評価]
1分	1. 始まりのあいさつをする。 Hello, everyone. My name is ○○. Hello, everyone. (Hello, ○○.)	・楽しい雰囲気での活動を始められるように明るく挨拶する。
3分	2. アルファベットチャンツをする。	・CDの音声を聞きいっしょに言う。 (アルファベットの名前読みと音読みの両方を練習する)
6分	3. DVDを見る ・2文字子音の歌	・「2文字子音の歌 (DVD)」を通して、その発音に関心を持たせるようにする。
6分	4. ・今日のチャレンジの提示をする。 ・単語の発音練習をする。 [this, think, back, singなど]	・新しい2文字子音の読みを確認した後、チャンツを使ってリズムよく繰り返し単語を練習する。[2文字子音の発音練習に意欲的に取り組んでいたか]
13分	5. 2文字子音カードゲーム	・トランプゲームの方法を説明する。(4人グループになり、2文字子音の絵カードを一人3枚ずつ配る。教師の発音を聞き、自分が持っているカードにその単語があれば発音し、メンバーに渡していくゲーム。早くカードがなくなれば勝ちとなる。)[2文字子音の単語を聞き取ることができたか]
1分	6. 終わりのあいさつをする。 Thank you, everyone. (Thank you, ○○.) See you next time. Bye!	・がんばったことを誉め、楽しい雰囲気での授業を終えられるようにする。

第5学年1, 2組 英語活動指導案

平成21年12月11日 (金)

〈授業者〉

11:15~11:45 (5年2組)			11:50~12:20 (5年1組)		
上越教育大学大学院	1年	Joe	上越教育大学	4年	Melissa
	1年	Susie	上越教育大学大学院	1年	Julia
	2年	Carol		2年	Tony

1 題材名 「Phonics - 2文字子音-」

2 本時のねらい

(1) 2文字子音について理解する。

3 準備するもの

- ・DVD (DVDでフォニックス2：マジックでフォニックス②2文字子音)
- ・アルファベットチャンツの絵とCD ・文字入り絵カード (グループ用9セット, 提示用)
- ・カード (ch, sh, ph, wh, th①, th②, ck, ng,) ・カード入れボックス

4 本時の展開 (30分間)

分	学習活動	指導・支援上の留意点・[評価]
1分	1. 始まりのあいさつをする。 Hello, everyone. My name is ○○. Hello, everyone. (Hello, ○○.)	・楽しい雰囲気です活動を始められるように明るく挨拶する。
3分	2. アルファベットチャンツをする。	・CDにあわせてアルファベットの音読みの練習をする。
6分	3. DVDを見る ・2文字子音の歌	・「2文字子音の歌(DVD)」を通して、その発音に関心を持たせるようにする。
6分	4. ・今日のチャレンジの提示をする。 ・単語の発音練習をする。 〔this, think, back, sing, chime, ship, phone, whiteなど〕	・2文字子音の読みを確認した後、チャンツを使ってリズムよく繰り返し単語を練習する。〔2文字子音の発音練習に意欲的に取り組んでいたか〕
13分	5. 2文字子音カルタ	・カルタの方法を説明する。 (教師の発音を聞いてその単語を集めるカルタゲーム。途中から、二つの単語を聞く活動を入れたり、その場にはない単語を発音したりして活動に変化をもたせるようにする。)[2文字子音の単語を聞き取ることができたか]
1分	6. 終わりのあいさつをする。 Thank you, everyone. (Thank you, ○○.) See you next time. Bye!	・がんばったことを誉め、楽しい雰囲気です授業を終えられるようにする。

第5学年1, 2組 英語活動指導案

平成21年12月18日(金)

〈授業者〉

11:15~11:45 (5年2組)		11:50~12:20 (5年1組)	
上越教育大学大学院1年	Joe	上越教育大学 4年	Melissa
1年	Susie	上越教育大学大学院1年	Julia
2年	Carol	2年	Tony

1 題材名 「Phonics - 2文字子音-」

2 本時のねらい

(1) 2文字子音のまとめをする。

3 準備するもの

- ・アルファベットチャンツの絵とCD
- ・文字入り絵カード(グループ用9セット, 提示用)
- ・カード(ch, sh, ph, wh, th①, th②, ck, ng,)

4 本時の展開 (30分間)

分	学習活動	指導・支援上の留意点・[評価]
1分	1. 始まりのあいさつをする。 Hello, everyone. My name is ○○. Hello, everyone. (Hello, ○○.)	・楽しい雰囲気です活動を始められるように明るく挨拶する。
3分	2. アルファベットチャンツをする。	・CDにあわせてアルファベットの音読みの練習をする。
5分	3. ・今日のチャレンジの提示をする。 ・単語の発音練習をする。 [this, think, back, sing chime, ship, phone, whiteなど]	・チャンツを使ってリズムよく繰り返し単語を練習する。〔2文字子音の発音練習に意欲的に取り組んでいたか〕
20分	4. 2文字子音カードゲーム “Merry Christmas (Go fish version)”	・ゲームの方法を説明する。 Do you have “chime” ? Yes, I do. No, I don't. “Merry Christmas (go fish!)”
1分	5. 終わりのあいさつをする。 Thank you, everyone. (Thank you, ○○.) See you next time. Bye!	・がんばったことを誉め、楽しい雰囲気です授業を終えられるようにする。

3. 今後の課題

本稿では、2009年(平成21年)度に本学附属小学校と協同で実施している英語活動学習プログラム開発の基となっている考えと、特に4年生、5年生用学習プログラムを紹介した。同学習プログラムの効果についての評価は今年度出張授業終了時に実施する予定である。今後の課題として、来年度の大文字学習開始時期の新たな検討、フォニックスの規則をどの程度まで導入できるのかについての検討、書くことをどのように開始するかについての検討があげられる。

引用・参考文献

- Curtain, H., & Pesola, C. A. (1994). *Languages and children: Making the match* (2nd ed). White Plains, NY: Longman. (伊藤克敏ほか(編). 『児童外国語教育ハンドブック』. 東京: 研究社, 2005).
- 中山兼芳編. (2001). 『児童英語教育を学ぶ人のために』. 京都: 世界思想社.
- 野呂忠司. (2007). 「小中連携と文字指導」『小学校英語と中学校英語を結ぶー英語教育における小中連携ー』. (松川禮子・大下邦幸編著). 東京: 高陵社書店. 102-118.
- 樋口忠彦他編. (2005). 「これからの小学校英語教育ー理論と実践ー」. 東京: 研究社.
- 小泉清裕. (2003). 「高学年向き各教科の内容を取り入れた英語活動の実践」. 松川禮子(編著). 『小学校英語活動を創る』. 東京: 高陵社書店. 110-112.
- 松香洋子. (1981). 『英語好きですか』. 東京: 読売新聞社.
- 松川禮子. (2004). 『明日の小学校英語教育を拓く』. 東京: アプリコット.
- 箕浦永生. (2005). 『3章 これからの小学校英語教育ー理論と実践ー』 樋口忠彦・金森強・國方太司編 東京: 研究社. 70-72.
- 文部科学省. (2001). 『小学校英語活動実践の手引』. 東京: 開隆堂出版.
- 文部科学省. (2007). 平成19年度小学校英語活動実施状況調査集計結果 (2008年10月1日検索).
<http://www.mext.go.jp/b-menu/houdou/19/03/07030811/004.htm>.
- 白畑知彦他. (1999). 『穎悟教育用語辞典』. 東京: 大修館書店.